

令和4年度 学校経営環境分析書

安浦中学校区 校番 33 学校名 呉市立安浦小学校

1 学校の内外環境の分析

外部環境	<p>O (支援的要因)</p> <p>【校区】</p> <ul style="list-style-type: none"> 海・山などの豊かな自然に恵まれ、学校近辺(校区内)に様々な施設が多く、学習材として活用できる。 <p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育活動に、協力的である。 役員が中心となり、自主的にPTA活動を計画・運営することができる。 <p>【地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> 活用できる外部人材が多く、教育活動に協力的である。 読み聞かせの会があり、読書活動の充実を図ることができる。 体験活動(芋植え・川の水質調査・稚魚の放流)等の機会に恵まれている。 	<p>S (強み)</p> <p>【児童】</p> <ul style="list-style-type: none"> 明るく、優しく素直である。 活動的で、外でよく遊ぶ。 「安浦スタンダード」が概ね定着している。 やるべきことにまじめに取り組む児童が多い。 異学年のつながりがある。 高学年児童が模範となる姿を示している。 防災についての意識が高い。 <p>【教職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 協力的、組織的で、情報を共有し全体で取り組む。 小中が連携し、基本的な考えをもとに単元づくり・授業改善に取り組んでいる。 	<p>支援的要因と強みを生かした活動・取組は</p> <ul style="list-style-type: none"> 豊かな環境や協力的な外部人材を活かし、ふるさと・生き方学習を行う。 縦割班活動を充実させ、異学年のつながりを深めることができる。 取組の重点化を図り、学校組織として取り組むことができる。
	<p>T (阻害的要因)</p> <p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童や学校への協力・理解度、関心度に差があり、協力を得にくい家庭もある。 学級懇談会、教育講演会等への参加が少ない。 保護者間の連携をより深める必要がある。 <p>【校区】</p> <ul style="list-style-type: none"> 校区が広域のため、保護者同士のつながりが少ない面があり、機動力に欠ける。 中学校区内の3校が離れているため、学校間の交流活動がもちにくい。 学校や中学校区が西日本豪雨災害により、多くの被害を受けた。 	<p>W (弱み)</p> <p>【児童】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学力の個人差が大きく基礎学力が低い児童がいる。 実生活に生かす活用力が弱い。 児童数に対して、運動場が狭く十分な遊びや運動することが難しい。 校区が広いため、放課後、関わるメンバーが固定化している児童が多い。 登校を渋る不登校傾向の児童が多い。 <p>【教職員等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導力に差がある。 外国語教室、相談室がない等、教室数に余裕がない。 	<p>阻害的要因と弱みを克服する活動・取組は</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災教育を充実し、災害から自分の命を守る児童を育成すると共に、保護者や地域の意識を高める取組をしなければならぬ。 思考力・判断力・表現力とともに知識及び技能を育成するための手立てを共有して、主体的・対話的で深い学びを実感させる授業づくりに組織的に取り組む必要がある。

2 重点課題

- ① 防災教育を充実させ、「自分の命は自分で守る」力を育成し、保護者や地域の防災意識を高める。
- ② 逆向き設計論による単元づくりや思考を深める学び合いにより、思考力・判断力・表現力の向上を図るとともに、個に応じた指導を行い知識及び技能を確実に身に付ける。
- ③ ふるさと・生き方学習の充実により、ふるさとに感謝・貢献しようとする児童を育成する。
- ④ タブレットの活用により業務改善と働き手の意識改革を行い、子供と向き合う時間を確保する。